

令和7年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

(1) 都立東大和高等学校 学校運営連絡協議会

(2) 事務局の構成

事務局長：総務部主任 事務局：総務部教員 計3名

(3) 内部委員の構成

校長、副校長、経営企画室長、教務部主任 進路指導部主任、生活指導部主任 計6名

(4) 協議委員の構成

学識経験者(駿台予備学校)、近隣中学校長、地域(東大和市教育委員会指導部長・青少年課長)、同窓会長、PTA会長、地域代表 計7名

2 令和7年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会(第1～3回)の開催日時、出席者、内容、その他

第1回 令和7年5月16日(金)

協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出、学校運営連絡協議会の趣旨説明、学校経営計画
本校の取組目標と方策についての意見交換

第2回 令和7年10月22日(水)

授業公開、本年度の各分掌の取組に関する進捗状況の報告、教育活動の報告に対する意見交換
学校評価の内容検討、協議

第3回 令和8年3月4日(水)

本年度の各分掌の取組の結果報告、学校評価アンケートの結果と分析、学校経営報告

(2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他

第1回 令和7年10月22日(水)

学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価の実施に向けた内容・実施時期の検討

第2回 令和8年3月4日(水)

アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理、提言の確認

3 学校運営連絡協議会による学校評価(学校評価報告)

(1) 学校評価の観点

「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模 ()内は昨年度の数値

- ・12月 全校生徒 対象：816人 回収率：95.5%(86.15%)
- ・12月 保護者全員 対象：816人 回収率：54.2%(54.90%)
- ・12月 教職員 対象：53人 回収率：100%(95.45%)
- ・12月 地域 対象：東大和市立第一・第二・第四中学校保護者 回収：47件

○回収率について

Formsを活用して実施した。保護者回答率は昨年度とほぼ同様。スタディサプリにて周知、PTAからも周知して頂いたが、情報発信と共に大きな課題となった。

(3) 主な評価項目

・学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全など

(4) 評価結果の概要 () 内は昨年度の数値

①教育目標の理解 肯定的評価

◇生徒 92.70% (92.26%)

◇保護者 90.29% (89.73%)

◇教育目標は認識されており、肯定的評価である。今後も全教職員で、学校経営計画に基づいた取組を行っていく。

②教育課程 肯定的評価

◇生徒 86.68% (83.24%)

◇保護者 77.20% (73.66%)

◇学校経営計画では授業満足度85%以上を目標として掲げ、教員の相互授業見学や授業アンケートを実施し、授業改善に取り組んだ

③学習の機会 肯定的評価

◇生徒 83.48% (80.37%)

◇保護者 42.66% (71.88%)

◇生徒は肯定的評価が増加しているが、保護者の肯定的評価が得られていない。講習や補修等について保護者や生徒が求める内容等について検証し、情報発信に努める必要がある。

④進路指導 肯定的評価

◇生徒 88.35% (87.97%)

◇保護者 78.33% (79.69%)

◇進路指導については、おおよそ肯定的評価である。今年度は進学指導研究校指定されたこともあり、3年間を見通した進路指導が構築できるようになった。年間3回模試分析会や三者面談の実施等により、教職員の進路指導力向上や、家庭との連携に取り組むことができた。

⑤規範意識 肯定的評価

◇生徒 93.60% (94.27%)

◇保護者 80.14% (82.59%)

◇規範意識については、おおよそ肯定的評価であるが、自転車事故やマナーを指摘する地域の方からの電話も数件あった。全教職員体制で、生徒に対してルールやマナーの重要性を伝え、身だしなみ指導を含めた生活指導を継続していく。

⑥学校行事の有用性 肯定的評価

◇生徒 93.21% (92.26%)

◇保護者 93.23% (93.08%)

◇学校行事については肯定的評価であるが、来年度は校舎改築に伴う会場変更や時期変更があるため、計画的に学校行事の充実を図る必要がある。

⑦部活動の有用性 肯定的評価

◇生徒 91.17% (89.97%)

◇保護者 86.00% (91.29%)

◇本校に入学する生徒のほとんどは部活動を志望理由として入学し、保護者も部活動に対する期待度が非常に高い。一方で自由意見では、否定的な意見も多く、部活動年間計画を策定し計画的かつ効率的な部活動の在り方について検証し、改善を図る時期であると考えられる。

⑧ICT利活用 肯定的評価

◇生徒 72.99% (未実施)

◇保護者 42.44% (79.46%)

◇生徒へのアンケートは今年度より実施した。義務教育での一人1台端末利用が日常的利用になっているため、授業での利活用は当然だが、学校行事や部活動等の特別活動も含めた全教育活動においても、一人1台端末の利活用をさらに推進していく。

⑨SNSの利用状況 肯定的評価

◇生徒 94.62% (97.42%)

◇保護者 79.91% (86.38%)

◇SNSを適切に使用していると考えている生徒が多いが、SNS等に関するトラブルは年々多様化しており、学校として指導を継続していく必要がある。スマートフォンのカメラ機能の利用方法についても同様で、盗撮につながるリスクも踏まえ、継続的な注意喚起や指導が必要である。

⑩情報発信 肯定的評価

◇生徒 90.78% (82.95%)

◇保護者 77.88% (80.80%)

◇学校HPは週3～4回程度の更新に努めたが、学校からの情報発信がさらに求められている。保護者向けにスタディサプリでの配信や、学校の様子や生徒の活動をわかりやすく紹介するように学校HPや公式SNS (Instagram) 等の充実を図っていく必要がある。

(5) 評価結果の分析・考察 (校長や学校全般への意見・提言)

*学習指導については、観点別評価を適正に実施するために、検証し続ける必要がある。より丁寧な説明で、魅力ある授業へつなげる。

*学校生活における満足度は高く、特に部活動において満足している生徒が多い。ただし、教職員の働き方改革を推進するためにも、顧問と部活動指導員が連携して指導する部活動体制を構築する必要がある。

*夏期講習を複数教科で実施しているが、講習参加人数の増加を狙う必要がある。生徒や保護者への周知が課題である。また、学習と部活動を両立させるために、全教職員が多方面から生徒を支援する取組を増やしていく必要がある。

*進路指導については、模試分析会による教職員の意識向上を図ることができた。授業改善につなげていくための分析を継続する。また、保護者に対し、細やかな情報発信に取り組む必要がある。

*自転車事故件数が増加し、救急搬送を伴う事故もあった。来年度4月からの自転車に関する法改正に伴い、セーフティ教室に加え、自転車出前授業を実施し、生徒の安全意識を高める。

*SNS等に関するトラブルは年々多様化しており、組織的に指導を継続していく必要がある。

*学校HPは改善を行っているが、更新回数増加と内容改善の必要がある。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題 (学校の自己評価へ反映)

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

*全般的にアンケートの肯定的評価は高いが、ルールやマナーに対する指導について全教職員体制で行う必要がある。また、教員の生徒指導力やコンプライアンス意識については、研修会の開催も検討し対応していく必要がある。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

*保護者への情報提供が不足しており、組織的な情報発信体制を構築する必要がある。

*社会の変化や生徒の多様性等に教職員が対応できていない事例がある。教員研修等を利用し、指導力向上を目指す。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項 (学校経営計画へ反映)

(1) 最重要目標

「授業力の向上と生徒の学習・進路に対する意識の向上」

(2) 学習指導

授業力の向上、基礎基本の充実、主体的学習意欲の向上

(3) 進路指導

進路指導部を中心とした組織的な進路指導の実施

(4) 生活指導

基本的な生活習慣の確立、交通安全意識の向上

(5) 特別活動・部活動

部活動と学習の両立

(6) 健康・安全

退学者なし、生徒支援委員会の充実

- (7) 募集広報活動
効果的な広報活動
- (8) 学校経営・組織体制
企画調整会議と教科主任会議を軸とした一体的な学校運営

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

- (1) 協議委員人数 7人
- (2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう 思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう思わ ない	分からない	無回答
4	3					